

3. 3 教育体制・産業界ニーズ 把握体制の後方支援

(1) ユビキタスキャンパスグループ活動報告

1. グループ事業の取組

本グループでは、教育体制・産業ニーズ把握体制の後方支援を目的として、ICT 利活用環境の整備および推進のための以下の活動を行っている。

- (1) 学内 ICT 環境の整備・充実（設備等の維持や利便性向上の検討）
- (2) 携帯情報端末の配布・諸説明等の ICT リテラシ指導、および、eラーニング推進
- (3) 「4つの教育事業」で使用するアプリケーション・システムの開発・運用支援
- (4) 事業成果の広報等を目的とした Web サイトの構築・運用

平成 24 年度は、平成 23 年度の事業（「大学生の就業力 育成支援事業」『持続型職業人 SOZO プロジェクト』）の実施結果と課題、および、学生アンケート等の評価結果を踏まえ、改善活動を中心に上記事業を展開した。活動内容の一覧を表 1 に示す。

表 1 平成 24 年度ユビキタスキャンパスグループ活動一覧

日付	分類	内容	対象
4月12日(木) 4月17日(火)	(2)	プロジェクト管理アプリ導入説明会	情ビ3年
4月18日(水)	(2)	プロジェクト管理アプリ導入説明会	キャリ2年
5月22日(火)	(4)	Webサイト再構築・公開	
6月7日(木)	(2)	就業力育成支援を目的とした一問一答アプリ・システム Sozo Platz 開発・公開 (v1.0.0)	
6月13日(水)	(2)	iPad 配布・説明会	経営1年
6月26日(火)	(2)	アプリ導入説明会 (Handbook, Sozo Platz)	経営1年
7月18日(水)	(2)	アプリ導入説明会 (Sozo Platz)	教員
7月30日(月)	(2)	アプリ導入説明会 (Sozo Platz)	情ビ3年
7月31日(火)	(2)	アプリ導入説明会 (Sozo Platz)	キャリ2年
8月2日(木)	(2)	Sozo Platz 機能改善 (v1.0.0 → v1.1.0)	
9月11日(火)	(2)	iPad 配布・説明会	情ビ2年
9月12日(水)	(2)	iPad 配布・説明会、アプリ導入説明会	キャリ1年
9月12日(木)	(2)	Sozo Platz 機能改善 (v1.1.0 → v1.2.0)	
9月20日(木)	(2)	アプリ導入説明会 (Handbook, Sozo Platz)	情ビ2年
9月24日(月)	(2)	Sozo Platz に関する発表・意見収集 (電気関係学会東海 支部連合大会)	
12月28日(金)	(1)	eラーニングサーバ環境改善 (ハードウェア増強)	
3月29日(金)	(3)	プロジェクト管理アプリ・システム機能修正	
3月29日(金)	(3)	スチューデントプロフィールシステム (Sozo Passport) プロトタイプ開発	

情ビ：情報ビジネス学部キャリアデザイン学科，経営：経営学部経営学科

キャリ：短期大学部キャリアプランニング科

2. 活動成果

(1) 学内 ICT 環境の整備・充実（設備等の維持や利便性向上の検討）

- 平成 23 年度末に無線 LAN 環境の充実化をはじめとする学内 ICT 環境の更新を行い、大学の一般教室・PC 教室のすべてにおいて携帯情報端末（iPad）から無線 LAN 接続ができる環境を整備した。平成 24 年度は、更新後の学内設備に対してシステムログ等の観察を通じて不具合発生状況を監視した。結果として、特に不具合の発生は確認されず、現状では安定した ICT 環境を提供できているといえる。
- D 棟 5 階共同ゼミ室に iPad を接続・管理できる PC 環境を追加整備し、学生の iPad 利用に関する利便性向上を図った。
- e ラーニングシステム（Handbook）の利用者増加に対応するため、該当サーバのハードウェア増強を行い利用環境の改善を行った。

(2) 携帯情報端末の配布・諸説明等の ICT リテラシ指導、および、e ラーニング推進

- 平成 23 年度は、プロジェクト活動に参加する学年の学生（情報ビジネス学部キャリアデザイン学科 3 年、短期大学部キャリアプランニング科 2 年）に iPad を貸与し、プロジェクト活動や e ラーニングに利用させた。しかし、iPad を持つ学年と持たない学年が混在したため、教員が授業等において積極的に iPad を活用できない状況であった。この問題に対し、平成 24 年度は、事業対象の学部・短期大学部の学生全員に iPad を貸与し、授業等での利活用を阻害する要因を排除した。
- iPad 貸与学生を対象に、iPad の基本操作、プロジェクト管理システム、および、e ラーニングシステム（Handbook、Sozo Platz）に関する説明会を実施した。



図 1 iPad アプリケーション導入説明会

- 教員に対して e ラーニングシステム（Handbook）利用ガイドを配布し、e ラーニングシステムの利活用を働きかけた。全学生に iPad を貸与した効果もあり、平成 24 年度秋学期以降は授業・演習での Handbook 活用が進んだ。結果として、全コンテンツ数：38、システムへの総年間ログイン数：5,288 と前年から飛躍的に増加した。
- 前年度に試作開発した就業力育成支援を目的とする一問一答アプリ（Sozo Platz）の正式公開、および、機能改善を行った。また、その導入方法や利用方法について、

学生と教員を対象にそれぞれ説明会を実施した。開発したアプリに関して学会発表（平成 24 年度電気関係学会東海支部連合大会）を行い、外部の教育者の意見収集を行った。

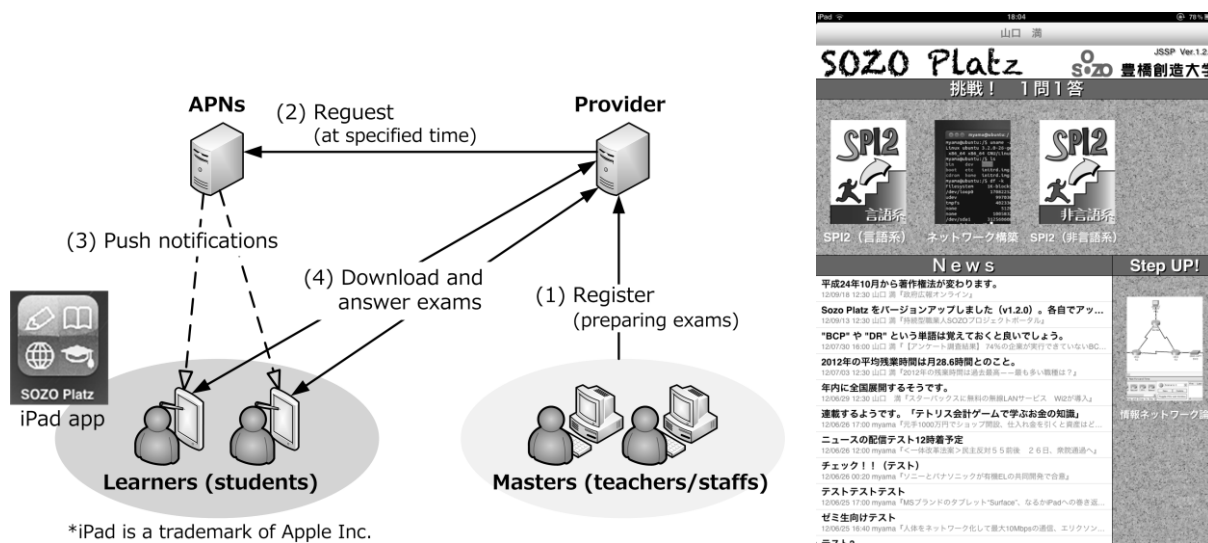


図 2 一問一答アプリ (Sozo Platz)

(3) 「4つの教育事業」で使用するアプリケーション・システムの開発・運用支援

- 自己理解促進プログラムグループ、および、地域産業連携プロジェクトグループと連携し、それぞれのグループで使用する『スチューデントプロフィールシステム』（学修ポートフォリオシステム、Sozo Passport）の仕様策定を行い、システムの開発に取り組んだ。このシステムは、PROG アセスメント結果や社会人基礎力評価シート、その他制作物をアーカイブするシステムで、学生はいつでも自分の活動等について振り返ることができるようにしている。現在はプロトタイプが完成した段階であるため、平成 25 年度前半も継続して開発およびテストを行い、平成 25 年度秋学期から正式に運用を開始できるよう計画・準備する。
- 地域産業連携プロジェクトグループで利用する『プロジェクト管理システム』について、同グループと連携し、利便性を向上させるための問題点の洗い出しと具体的なシステム不具合に関する機能改善を行った。

(4) 事業成果の広報等を目的とした Web サイトの構築・運用

- 平成 23 年度までに利用していた学内 Web サイト（内部関係者向け）について、事業成果を対外的に公開できるよう再構築を行った。また、学内向け（制限付き）のページを作成してマニュアル等の資料や FAQ 等の掲示を行い、学生・教職員向けの支援サービスを充実させた。

サイト URL: <http://project.sozo.ac.jp/>

3. 実施事業を踏まえた次年度の方策

(1) 継続して学内 ICT 環境の維持および改善活動を実施する。特に、学内ネットワークに接続する無線端末の増加に伴うインターネットトラフィックの増加に対応するため、対外接続回線の見直しを行い帯域確保に努める。

(2) 新たに本学に入学する学生に対しても同様に iPad を貸与し、全員が iPad を所持し学習に利用できるよう準備する。また、そのための説明会等を随時実施する。

(3) 平成 24 年度までに完成したスチューデントプロフィールシステム (Sozo Passport) のプロトタイプに対する試験や評価を通じて改善を春学期中に行い、秋学期から学生・教員で利用できるよう関係事業グループと連携して開発・準備を行う。また、プロジェクト管理システムについても利用教員から意見を収集して機能改善を行い、より学生指導に有益なシステムに進化させる。

(4) 前年度に引き続き本事業の活動内容を Web サイトに整理して掲載し、連携大学向け情報共有および一般の学外向け情報発信を行う。

(2)大学コミュニティグループ

1. グループ事業の取り組み

大学コミュニティグループ活動は、『産業界ニーズに対応した教育改革・充実体制整備事業』の補助金対象外で、費用は本学負担で行っているものである。目的は『教育体制・産業界ニーズ把握体制の後方支援』としている。平成24年度は卒業後3年間における卒業生の離職状況調査を中心に以下の活動を行った。また、この活動は大学と短大が連携した形で行っている。

平成24年度活動内容

月 日	活 動 内 容	学部
4月～5月	平成21、22、23年3月卒業生 就業状況調査の集計、分析	○
5月	就業状況調査未回答者追跡調査実施	○
6月～3月	卒業生就職先に企業訪問 求人開拓 在学生への教育指導依頼	○
10/27-10/28	創造祭同窓会ブース開設 創造祭へ来た卒業生にアンケート調査を実施	○
10/29 (月)	学内企業説明会 OB 人事担当者参加による説明に実施	○
11/29 (木)	短大OG 交流実施 (先輩の就職体験報告会にOG 参加)	
2月	平成22、23、24年3月卒業生 就業状況調査の実施	○
2/9 (土)	学内企業説明会 OB 人事担当者参加による説明の実施	○
3月	就業状況調査未回答者追跡調査実施	○

2. 活動成果

■ 卒業生就業状況調査

本学では、過去3年間の卒業生に対して、就業状況を把握するアンケートを毎年実施している。アンケートは離職率を集計するだけでなく、離職に至った理由等を詳細に分析し、在学生の就職指導や各種対策講座へも反映し、安易な離職を防ぐためのノウハウ等の構築に役立てている。

また、このアンケートでは卒業生との大学コミュニティーを活用した社会人基礎教育を展開させ、在学生が交流できる仕組み作りに役立てることを視野に入れた項目も設けており、卒業後の早期離職を防ぐことに繋げている。

尚、アンケートの回収率は伸びず、②平成25年3月31日については、未回答の卒業生宅へ休日に電話を掛けて、個別に調査を行っているところである。

《卒業生の就業に関する追跡調査》 ①

対象：2008～2010年度卒業生 182名 (大学卒業生：95名 短大卒業生：87名)
実施期間：平成24年4月20日～平成24年5月11日

《卒業生の就業に関するアンケート》 ②

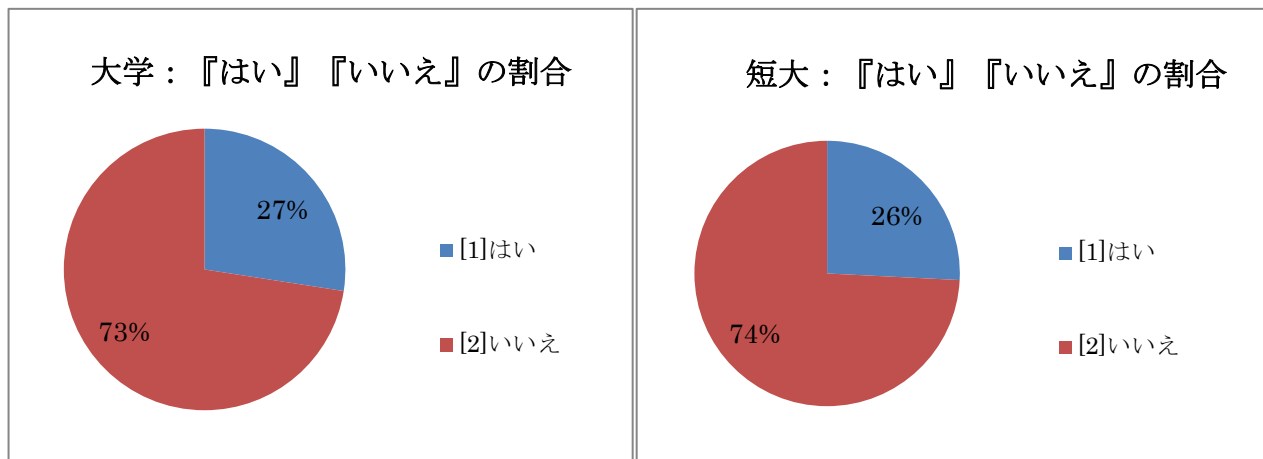
対象：2009～2011年度卒業生 283名 大学卒業生：123名 短大卒業生：158名
実施期間：平成25年2月1日～平成25年3月31日

卒業生の就業に関する追跡調査 集計結果

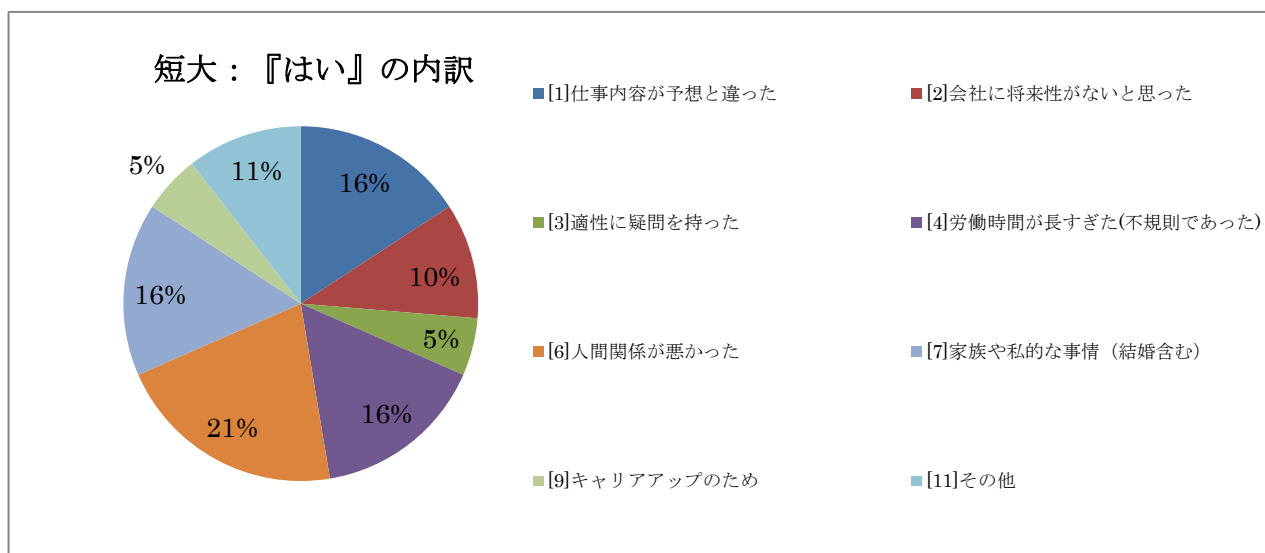
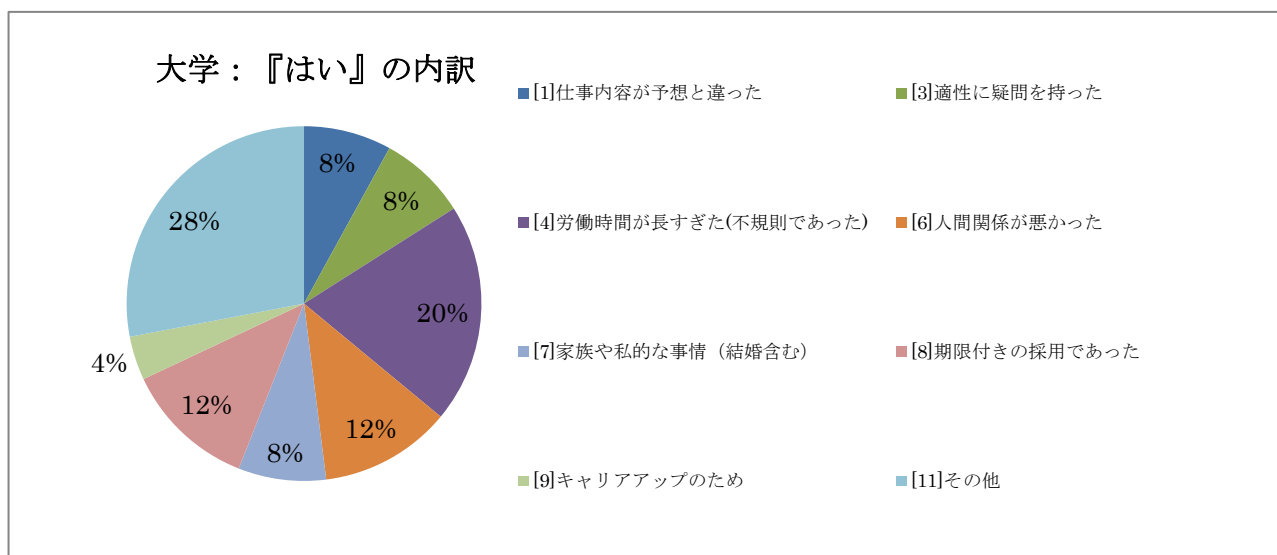
対象：2008～2010年度卒業生（大学卒業生：95名 短大卒業生：87名）

実施期間：平成24年4月20日～平成24年5月11日

Q1. 大学卒業後、離職または転職をされましたか？



Q2. 大学卒業後、離職または転職をされましたか？『はい』の第1理由



離職率については、大学・短大とも概ね2割から3割ということで、平均的な数値といえる。辞めた理由は、大学卒業生では『労働時間が長すぎた（不規則であった）』、『人間関係が悪かった』、短大卒業生では『人間関係が悪かった』『労働時間が長すぎた（不規則であった）』、『仕事内容が予想と違った』というところが多く、人間関係、労働時間がポイントとなっているように考えられる。どんな仕事でも3年間は我慢して従事しないと仕事の本当の面白さ、充実感、達成感は味わえないと言われているが、早期に離職してしまうことは、本人にも企業にもデメリットであると考えられる。

これから就職超氷河期、景気の低迷からは脱していく気配の日本経済ではあるが、早期離職防止に向けて本学の教育改善につなげていくためにも本調査は継続していく。

■ 創造祭学部卒業生同窓会ブース開設

本学では、毎年10月第4土曜日からの2日間にわたり、『創造祭』と呼ばれる学園祭を開催している。創造祭には多くの卒業生が来場することから、恩師や友人たちと旧交を温めたり、地元をはじめ社会で活躍する先輩と在学生の交流の場として学部卒業生を対象とした同窓会ブースを開設した。

同窓会役員はじめ卒業生有志により華やかに飾り付けられた会場では飲み物も提供されるなど、アットホームな雰囲気の中で在学中の思い出や近況報告等、会話に花が咲いていた。また会場の一角には歴代の卒業アルバムや来場者の記念写真（スナップ）が掲載され、両方を見比べながら談笑する卒業生グループの姿も見受けられた。

学部卒業生対象同窓会ブース開設

開催日：平成24年10月27日（土）・28日（日）

会場：豊橋創造大学 B22 教室 卒業生参加人数：57名

創造同窓会ブースでは同時に、勤務先に関する就職のアンケート調査を実施した。有効回答者は38名。今の仕事で『満足・普通』で30名。『不満・多少不満』で8名であった。勤務先の『良いところ』は、人間関係がよいが多く、『悪いところ』では、仕事量が多くとても忙しい、わずらわしい人間関係、休日が不安定となっており、今回の調査では人間関係で良し悪しが決定されるウエイトが多いように思われた。

そのほか、卒業生からの求人情報もあり、また卒業生を招聘する授業や就職ガイダンスへの協力賛同者が10名ほど発掘できたことは、今回の成果であった。

■ 学内企業説明会 OB 人事担当者参加による説明

34社が参加した秋の学内企業説明会（10月29日開催）、春の『三河地区企業学内研究セミナー』（2月9日）それぞれ、3人の本学OB人事担当者が参加した。本学学生が目線に立った、現実的で身近な説明は大変親近感もあり学生自身に大変意義のあるものであった。これからは卒業生が在籍する参加企業数を増やしていくことが重要である。

また『三河地区企業学内研究セミナー』において、本学が取り組むGPについて、参加企業の皆様に簡単なアンケートを実施したのでご紹介させていただく。



OBの人事担当者



秋の学内企業説明会

《2月9日参加企業に実施したGPアンケートより》

- ・『産業界ニーズに対応した教育改革・充実体制整備事業』の取り組みについては大変よい取り組みである、特にメンタル面での取り組みは先進的だと思う。
- ・学生さんが自ら立ち上げ運営までされることは、とてもよい学習になると思います。
- ・大学の講義を聞くだけでは学べないことを肌で感じられるよい機会である。
- ・最近の学生に不足している点は、個性、コミュニケーション能力、積極性、忍耐強さ。専門知識にこだわらず、幅広い知識、応用力が必要。
- ・10年程前と比較すると、「どんどん出世したい」というガッツのある方が少なくなった。サラリーマン、社会人に対して夢を持てるようにすることが必要と考えます。
- ・本学学生に不足しているものとして、明るさ、元気さ（特に男性）、目的意識。
- ・面倒見がよい学校が多いですが、ある程度「不自由さ」を経験することで、自ら動き発見する力が養われるのではないかと考えます。わざわざ大人が手助けしなくても社会を堂々と渡り歩いて行ける強さを身に着けられるような教育をお願いしたいです。

■ 企業訪問

企業訪問は、57社（学部23社・短大34社）行った。特に短大では、昨年度卒業生が就職した企業を中心に訪問を実施し、採用した側の思惑や意見・配慮等を詳細な部分まで聴取することができた。また、訪問することにより卒業生が喜ぶ様子から状況を読み取り、また苦悩する表情に励ましの助言を行うこともできた。このことは、早期離職に至る防波堤となったことと言える。さらに卒業生に対するフォローアップ効果も大であった。

今後は、直前卒業生の就職先訪問に留まらず、過去・新規の就職先企業訪問に広げていきたい。

3. 次年度に向けた改善

本活動は『教育体制・産業界ニーズ把握体制』の後方支援を行っているが、次年度は、メンタルタフネス講座受講生が対象の卒業生就業状況調査の集計が発表となる。結果を分析して教育改善を行うため学部、短大にフィードバックしていきたい。また、創造祭を利用した同窓会OBブースで参加を促し、交流人数を充実させ、さらなるOB、OGの協力を得ながら、様々な企画を実施していきたい。企業訪問については、卒業生の就業状況、情報収集先としても80社以上を目標としてゆく。